

(政務活動費用)

(様式1)

## 出張報告書

平成29年12月25日

釧路市議会議長 渡辺慶藏様

会派名 市民連合議員団

代表者名 佐藤勝秋



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	佐藤 勝秋
出張先	札幌市
期間	平成29年12月17日 ~ 平成29年12月18日 (2日間)
用務	「道民みんなで創る！ 公共交通ネットワークフォーラム」参加
調査(研修)結果等の概要	別紙報告書のとおり
備考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

平成29年12月25日

## フォーラム参加概要報告

市民連合議員団

### □ 道民みんなで創る！ 公共交通ネットワークフォーラム

(担当：佐藤 勝秋)

J R北海道の鉄道見直し問題を考える「道民みんなで創る！ 公共交通ネットワークフォーラム」が平成29年12月17日(日)13:00から札幌プリンスホテルを会場に開催され、市民連合議員代を代表し参加しましたので、以下、概要を報告いたします。

このフォーラムは、北海道が主催し、道市長会、町村会をはじめ経済団体、産業団体など24団体が共催し、国土交通省北海道運輸局が講演して開催され、冒頭の高橋北海道知事の挨拶に続いて、道



(非常に多数の参加があったフォーラム会場)

の総合交通政策検討会座長を務める岸邦宏北大准教授から「オール北海道で考える公共交通ネットワークの将来」とのテーマで基調講演を行いました。

岸准教授は、これまでの経過や現状に触れながら、鉄道のあり方を地域で考えるために必要なこととして、地域住民にとって最適な公共交通は何か、それをどう確保するのかとの課題に触れながら、鉄道の将来を考えることは、地域の将来を考えることであり、地域の産業、人々の生活、暮らしを考えることでもあると述べられ、その為にも、鉄道の利用促進のあり方(生活、観光、物流など)や誰が、何を、どのように負担していくのか、また、何をしなければならないのか、今、改めて考える時であること、さらに、今こそオール北海道として将来の交通体系のあり方を創り上げるチャンスであり、「人流、鉄道、バス、タクシー、航空、フェリー、物流すべての交通手段、道路ネットワーク」を網羅し、競争、役割分担、連携との視点で「北海道版運輸連合」の可能性を追求する必要があると強調されました。

その後、関係団体(医師会、バス協会、ハイヤー協会、航空関係)から意見が述べられ、岸准教授をコーディネーターに、高橋知事、菊谷道市長会会長、堰八道観光振興機構会長、島田J R北海道社長が参加してのパネルディスカッションが行われ、それぞれから、鉄道の地域にとっての必要性、利用促進や国の支援の重要性、また、外国人観光



(左から高橋知事、菊谷会長、堰八会長、JR 島田社長)

客の約5割が鉄道を利用しており、鉄道そのものが観光資源であること、JR北海道の島田社長からは「安全な鉄道の維持には莫大なコストがかかる。問題解決のための力を貸してほしい」との訴えがあり、最後に、高橋知事は、道民全体がこの問題に関心を持つことが必要であると述べられました。

本フォーラム全体を通して、北海道における鉄道を含む交通手段のあり方を、将来を見通して考える機会になったと感じるとともに、市民連合議員団

としても、人間の血管や神経にもあたる鉄道や道路などの交通体系を維持していくことは、地域や住民にとって必要不可欠の問題として、この課題に取り組んでいくこととしたいと考えます。

以 上